

街路樹

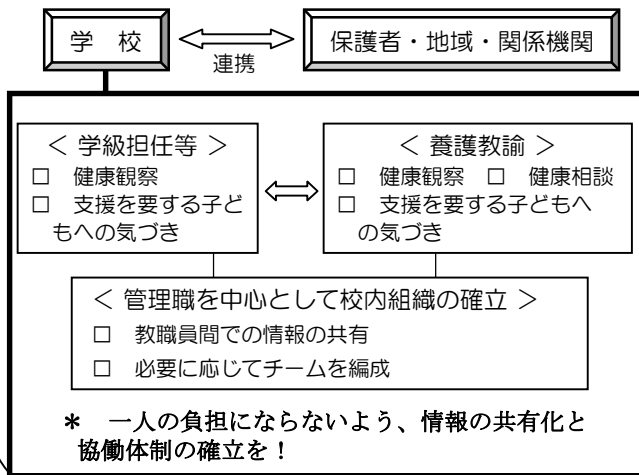


東日本大震災から2ヶ月余りが経ちました。この間先生方は、避難場所となった学校で避難された方々のお世話をしたり、授業再開に向けて児童生徒や保護者・地域の方々への配慮をしたりと本当にご苦労されていることと思います。

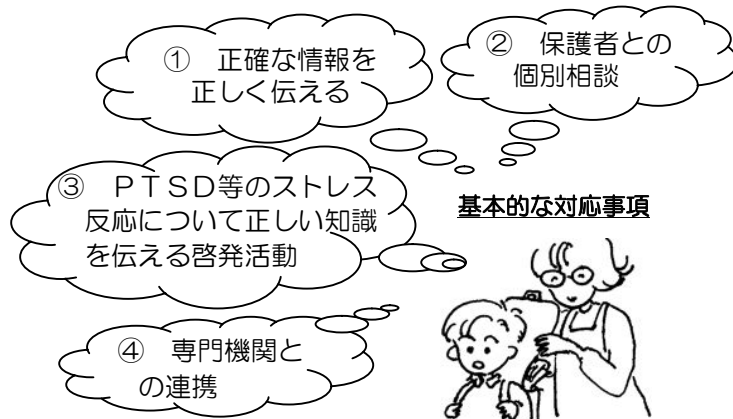
一方、この震災による生活環境の変化で、子どもたちの心身の健康に様々な問題が生じ、それに対する心のケアが必要となってきます。そこで、この研修だより「街路樹」において、「子どもの心のケアのすすめ方」を具体的な事例等を中心に載せていきますのでご活用いただければ幸いです。

心のケアのために

震災に伴う子どもの心の傷は、被災が大きければ大きいほど長期化し複雑化する。また、時間の経過とともに表面化してくることもあることから、児童生徒の状況等について継続的に確認し支援する必要がある。そのポイントとは.....



二子どものストレスを軽減して 安心感を与えるために必要な保護者との連携＝



(参考文献「子どもの心のケアのためにー災害や事件事故発生時を中心にー」文部科学省)

子どもの心のサインに気づく

＝早期発見・予防のために＝

危機発生時における健康観察表(例)

番号	調査項目	月日	月日	月日	月日	月日
1	食欲がない					
2	眠れないことがある					
3	おなかが痛いことがある					
4	吐き気がすることがある					
5	下痢をしている					
6	皮膚がかゆい					
7	目がかゆい					
8	頭が痛いことがある					
9	尿の回数が増えた					
10	食べ過ぎることがよくある					
11	なんとなく落ち着かない					
12	悩んでいることや困ったことがある					
13	なんとなくからだがかたくなる					
14	イライラして攻撃的になる					
15	急にふざぎこんでしまう					
16	ボーッとしている					
17	いつもと違う様子(元気がない、元気が良すぎる)					
18	保健室の利用が増えた					
19						
20						

- 平常時に使用している健康観察表と合わせて使用する。
- 個別の相談の機会に、子どもの心身の状況を確認する資料として実態に応じて使用する。

(参考文献「子どもの心のケアのためにー災害や事件事故発生時を中心にー」文部科学省)

元教育復興担当教員の体験談から

＝災害直後から1ヶ月後までに心掛けたこと＝

阪神・淡路大地震から、私の子どもに向かう姿勢は大きく変わっていった。当初は「心のケア」については、被災した子どもは時間が経てば少しずつ回復していくものと思っており、「PTSD」という言葉も知らなかった。当時はどの学校でも手探りの状態の中で、目の前の子どもたちを何とか救いたいという気持ちで取り組みを進めていた。そのどれもに共通したのは子どもたちに安心感を与えることが大切である。学校には自分のことを気にしてくれる大人いるという安心感が子どもの安定につながっていく。担任以外でも、全ての教職員が大きな役割を果たしたのが「声掛け」である。「朝ご飯食べたか？」でいいのである。継続して行った結果、やがて子どもの方から話しかけてくるようになった。

教職員の取り組みは丁寧な聞き取りや声掛けて子どもに寄り添い、安心感・安全感を！

(参考資料「災害を受けた子どもたちの心の理解とケア」兵庫県教育委員会)